慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	欧洲戦時に於ける通貨、物価、為替相場（上）
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.5 (1917. 5) ,p.625(45)- 637(57)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170501-0045

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

（廣告主へ御注文の節は三田學會雜誌廣告に依る旨御附記を望む）

△價格表

□高等裁縫部

△セビロ　三ツ揃
金　二十五圓以上　六十五圓位迄

▽オバーコート
金　二十二圓以上　八十圓位迄

▽レーンコート
金　廿二圓半以上　五十圓位迄

▽プロツク（二揃）
金　四十五圓以上　八十圓位迄

其他は御服會により可申上候

□制服部

▽專門學校　大學校（立襟）
金　十七圓以上　三十二圓位迄

東京　銀座通　尾張町二

澤田洋服店

創業（於米國桑港）一八九一年

其材料の新しい△
其型の氣のきいた△
其技工の優れたる△

▽澤田の洋服は
春の氣分に
最も能く隔合して
御滿足最も慥かなり

彼れが創業以來三十年に近い永い經驗と厚い信用、それに日々の最善の努力とは廣く深く紳士間に好愛せらるゝ所以である△

△地方は大略價格倍年度倍率乃至倍率

御注文は……にぐ直今……はがき又は

電話新橋二三三七
振替口座八八二八

雜錄

歐洲戰時に於ける通貨物價、爲替相場（上）

堀江歸一

大英學術協會の經濟學並に統計學科は專門委員を選定して、歐洲戰時經濟の諸問題を攻究せしめ、委員は曩に「信用產業並に戰爭」と題する第一回報告を發表し、今回第二回報告として「勞働金融並に戰爭」と題する冊子を公にしたり。本編は第二回報告中通貨並に物價に關する項を抜抄したるものなり。

一、通　貨

英國が歐洲開戰の當初、金融上の事變に臨んで、通貨券の形態を以て、政府紙幣を發行したる事情は既に世人の知る所の如し。其後信用の狀況に於ける異變の甚だしからざるに至るや、事變通貨に對する需要亦減少したりと雖も、同時に此通貨を利用して、一國に於ける金貨貯藏高を集中する希望の下に、通貨券の新職務なるもの認めらるゝに至れり。平和時代に國內に流通する金貨は隱匿せられたる國民的準備金にして、戰時に臨んで、適當の注意を以て、之に依賴するを得べし。即ち英國に於ては、此見地より流通しつゝある金貨を回收して、之を國庫に集中せんとし、其手段として人民に向つて郵便局並に銀行に就て、金貨と引換に通貨券を受取ることを勸誘したる所以なり。之を實際に徵するに、通貨券は英國に於ける法貨として發行せられ、英蘭銀行に就て要求次第金貨に兌換せらるる可きものなりしが故に、之に對して相當の金貨準備を置くを必要としたり。固より公衆が今日の如き時機に於て、相當の原因なくして、妄に兌換を請求するの希望す可からざる事たるや

論を俟たず。然も一方に適當なる準備を擁して兌換を行うの意思を示さんか、自ら公衆の金貨を請求する勢を制止するを得べく、更に金貨の保藏を減ずるに至る可し。故に通貨劵の一面に其如何なる金額に於ても法貨たることを記載するに加へて、更に明瞭に法律の條件に依て、要求次第金貨を以て、支拂はるゝことを記載するの必要ありしことを認めざる可からず。現に知識階級の間に於ても、通貨劵が金貨を以て兌換せらる可きものなることの知られざりし事實に徴するときは、其發行が金貨を集中するの援助たらず、却て保藏せらるゝ爲めに、金貨が人の手に授受せられたるものとす可し。

然らば通貨劵並に通貨證書に對して、金貨の準備せられたるものは幾何の高に上りしや。之を表示するに左の如し。

	通貨劵勘定	通貨劵通貨證書	金貨金地金	比率	政府證書	英蘭銀行殘高
一九一五年六月三十日	四六、五七六、八〇一 磅	二八、五〇〇、〇〇〇 磅	六、一三 割	九、五八八、八二七 磅	七、九七四、八七七 磅	
同十二月二十九日	一〇三、一二五、〇九九	二八、五〇〇、〇〇〇	二、七六	五四、六二〇、五六三	二〇、五三五、八六四	
一九一六年六月十四日	一二〇、五五一、一四四	二八、五〇〇、〇〇〇	二、三六	八四、七二〇、一七一	八、八五二、一六五	
八月十六日	一二九、九四八、四〇一	二八、五〇〇、〇〇〇	二、二〇	九六、六四四、〇七七	七、〇五三、六四八	

上表に據れば、通貨劵に對して保有せらるゝ金貨金地金の常に同額に止まれるに拘はらず、通貨劵の發行高は著しく增加し、兩者の比率を薄弱ならしめたり。元來兩者の間には如何なる比率を保たしめて、以て通貨劵の安全を維持するを得るか。固より豫想す可からざる事變に際して、通貨劵を安全ならしむる爲めには、準備金を最低限度以上に置かざる可からずと雖も、尙ほ戰爭の際には、金貨を通貨劵の準備金とするよりも、通貨劵の發行高を適當の程度に維持して、金貨を他の用途に就かしむるを有利なりとする事情を生ず可し。

通貨劵の發行は今や純然たる事變應急策の範圍を脫したり。但し之をして永久の效果を有せしむるが如きは、當初より企圖せられざる所なりと雖も、或る期間繼續す可きものなる以上は、其增發に伴う危險を妨遏するの必要極めて大なり。ジエヴオンス氏は先年「正貨流通の異動を支配する自然の法則に對して、人工的干涉を加ふるものは、即ち正貨に代る可き紙幣の發行にして、一方に對して嚴酷なる立法上の監督を施すは他方に自由を與ふるものなり」と云へり。ジエヴオンス氏の嚴酷なる監督と稱するは、英蘭銀行の紙幣發行を律するが如き器械的束縛に非ず、寧ろ通貨の伸縮自在を許す監督を主眼とするものなる可し。

第一回報告に於ては通貨劵が僞造の難に罹る程度に就て、疑を挾みたり。額面十志の僞造劵が千九百十五年夏の頃ミッドランド地方に流通したることは議會の問題と爲れるが、其後大藏大臣は議會に向つて、僞造劵の必ずしも多額ならざる旨を證言したり。然も事實の如何は姑く措き、通貨劵の如きものにして、戰時に發行せらるゝ場合には、圖識を完全にし、又授受に便利ならしむるを必要とす可く、蘇格蘭並に愛蘭の諸銀行が額面一磅の紙幣發行に就て實驗したる事實の如き參考す可きものと認められたり。

開戰の當初に於ては通貨の增加を必要とする種々の事情の存するものあり。第一動員の必要に應じ、第二外國に輸送せられたる金貨に代つて流通する用を爲し、第三公衆の保藏する金貨に代つて通貨たるの地位を充たし、第四市中銀行の預金增加に伴う債務の膨脹に對して、必要と爲る準備金を備へ、第五騰貴したる物價並に

賃銀の支拂に必要なる通貨を供給するが如きは、何れも通貨に對して需要の增加する原因と爲るものなり。通貨劵の發行高中、金貨を準備せざるものが銀行信用の膨脹を促すの效果を生じたるは勿論なるが、元來戰爭の前後に於て英國に流通したる貨幣の數量は幾何の高に上りしや、之を計算するときは、自ら通貨劵發行の效果如何を知るを得べし。今大藏省の調査に據るに、千九百十四年六月三十日公衆の間に流通せる金貨は七千八百三十萬磅にして、諸銀行（英蘭銀行を含む）の所有する金貨は八千二百八十萬磅と計算せられ、後者は千九百十五年六月三十日に於て一億一千二十萬磅に增加したり。更に千九百十四年六月三十日公衆の手元に存せる金貨に就ては、其の流通中のものと保藏に係るものとの二種に區別せざる可からず。但し戰爭前に於ては現金の保藏は獨り金貨のみに止まらず、紙幣にも行はれたる道理なるを以て、先づ流通中の紙幣に就て計算するに、千九百十四年六月三十日に於ける英蘭銀行紙幣の流通高は二千九百七十八萬四千二百九十五磅を數へたり。此紙幣の大部分は市中諸銀行の所有に係り、公衆の手元に存するもの八百萬磅に止まれるが、千九百十六年四月に於ては此金額は一千萬磅に上り、英國地方諸銀行の紙幣發行高は十萬磅以下なるを以て、全體の通貨流通高に深き關係を有せず、愛蘭、蘇格蘭諸銀行の紙幣發行高は千九百十四年六月には一千六百萬磅なりしが、千九百十六年四月には二千九百萬磅に增加したり。此外に補助貨幣の流通高あり、其內の銀貨のみに就て見るも、千九百十四年六月三十日の公衆の間に流通せる高は一千五百萬磅なりしが、千九百十六年四月には三千萬磅に增加したり。

千九百十四年六月末公衆の間に存せる上記の紙幣並に正貨を以て、盡く通貨の用を爲したるものとす可からず。其一部の保藏せらるゝや、論を俟たず。流通せざる貨幣を計算するに當ては、損傷滅失したる正貨紙幣と保藏に係る正貨紙幣との間に區別を爲すを必要とすれども是等兩者の區別は明瞭ならず、永く滅失したる貨幣にして發見せらるゝものあると共に保藏中の貨幣にして紛失するものある可く、加ふるに流通中の貨幣と保藏中の貨幣との間に轉換行はれて已まざる可し。且つ戰爭前に於ては英蘭と愛蘭並に蘇格蘭とを比較して、其間に行はれたる保藏の形態に就て、著しく異なれるものありき。蓋し前者に於ては現金の保藏は主として金貨を以て行はれ、之に代る可きものは英蘭銀行紙幣のみなるが、其額面五磅を以てしては保藏を行ふに高きに失し、其保藏せらるゝもの少なきを常とするに反し、後者に於ては人民は紙幣の流通に慣熟し、地方に於ては紙幣を保藏する者の少なからざるを見たり。而して開戰以來現金保藏高の增加したるは、疑ふ可からざる所なり。即ち戰爭の結果、貨幣流通高の增加したる一事は保藏に便ならしめ、高價を以てする農產物の需要、軍需品製造地方に於ける賃銀の騰貴等は相重なりて、自作農夫並に勞働者をし貯蓄を行ふの餘裕あらしむ可き筈なるに、事實に於ては彼等の資金が貯蓄銀行や公債に向つて放下せらるゝの道に就かざるは畢竟一部分の保藏の行はるゝ結果と見る可く、又一部の社會に今後の事變に應ずる目的を以て、保藏を行ひつゝある者ある可く、現に開戰當時の恐慌に際し、銀行に取付けられたる正貨は盡く銀行に復歸したることを認むる能はず。近時警察官の報告に徵するに五十磅乃至二百五十磅の金貨を竊取せらるゝ事件の少なからざるが如き、保藏の流行しつゝある一端を示すものとす可し。

以上の事實は固より完全ならずと雖も、通貨劵の發行が如何なる程度まで流通高を增加する

を得るやを計算するの根基たる可し。千九百十六年五月末日に於ける通貨劵並に同證書の現在高は一億一千八百五十四萬九千五百七十四磅なりしが、其金額が公衆の間に流通したるに非ず、通貨劵證書は銀行に於て所有するを常とし、通貨劵の內にも銀行所有のもの少なからず、兩者を合せて四千萬磅に上れる計算なるを以て、公衆の間に存する通貨劵は七千八百五十萬磅にして、其小部分は保藏せられたるものと見る可し。一方に造幣局の計算に據れば、千九百十四年六月三十日公衆の間に存したる金貨は七千八百三十萬磅に居れるを以て、千九百十六年五月三十一日に於ては、此金貨の大部分に代つて、七千八百五十萬磅の通貨劵と一小部分の金貨と流通するものと見る可く、然も金貨に於ける保藏の增加したる事實に顧みんか、通貨劵發行の爲めに、特に貨幣流通高を增加せしめたりと認むる能はず、通貨增加したりとすれば、即ち英蘭銀行、蘇格蘭、愛蘭兩銀行の紙幣並に銀貨の膨脹に基くものとす可し。但し通貨劵證書は其法貨たるの故を以て、銀行にして之を所有するときは、債務に對する支拂準備金たる可く、又通貨劵に依て流通外に排除せられたる金貨にして銀行に回收せられて、信用の膨脹に資したるものある可く、斯くて通貨劵が所謂銀行業者の貨幣を增加し、間接に通貨を膨脹せしめたるの效果は之を否定す可からざるなり。

前項に於て千九百十四年六月末日公衆の間に存せる金貨の高を七千八百三十萬磅としたるが、今其計算の根據を說明す可し。千八百九十五年流通中の金貨並に銀行の準備金たる金貨は合せて九千二百五十萬磅と計算せられ、次ひで千九百三年に於ては、英國全體に存する金貨は一億磅を下らざるものと計算せられたり。爾後の計算は多く此數字に基礎を置き、現に千九百十年十二月三十一日の現在に據り、造幣局長代理エリソン、マツカートネー氏の調査したるものを見るに、千九百三年銀行並に公衆の所有に係る金貨を一億磅とし一方に千九百十年十二月末日に至るまでの增加額一億四百三十萬磅の內より七年間の輸出入差額六千六百萬磅、輕量貨幣、地金鑄潰高一千九百三十萬磅、消耗高三十萬磅、外國旅行者の携帶額五百七十萬磅合計九千一百三十萬磅を控除し、殘額一千三百萬磅を千九百十年十二月末までの純增加額とし、之を前記の一億磅に加へたる一億一千三百萬磅を以て、當時の金貨現在高とす。而して當時諸銀行の所有したる金貨は四千四百萬磅と數へられたるを以て、公衆の間に流通したる金貨は六千九百萬磅とす可し。更に千九百十年十二月末日より千九百十四年六月三十日に至るまで三年半を經過する間に於て、金貨の純增額は四千八百十萬磅と計算せらる。之を右の一億一千三百萬磅に加へたる一億六千百十萬磅を以て、金貨の現在高とし、此內八千二百八十萬磅は銀行に於て所有し、七千八百三十萬磅は公衆の間に流通するものと計算せられたるなり。今、上記の諸計算を概括すれば、左の如し。（單位百萬磅）

一九〇三年	
英國現存金貨	一〇〇
一九〇三年より一九一〇年末に至る間	
造幣局發行額	一〇四、三
地金又は輕量貨幣として流通高より回收	一九、三
製造品に使用せられたる分	、三
輸出入差額として國外に出でたる分	六六、
計	八五、六
差引	一八、七
合計	一一八、七
金貨の無形的輸出	五、七
再差引（一九一〇年十二月末英國現在金貨）	一一三、
一九一一年より一九一四年六月三十日に至る間	
造幣局發行高の正貨輸出超過高、回收高を超過する分より減損貨幣を控除したる高	四八、一

合　計	一六一、一
一九一四年六月末銀行所有の分	八二、八
同上公衆流通の分	七八、三

千九百三年の計算は金貨の現存高を過大に推算したるの傾あるが、更に上記十箇年半に亘る計算に就て概觀するも、疑を挾む可き點あり。即ち製造業に使用せられたる金貨並に無形的輸出に供せられたる金貨の控除額は是れにして、其無形的輸出と稱するは、旅客に携帶せらたて、外國に出づる金貨を云ふものなり。第二の期間に於ては、是等の原因に依て生ずる減損額を合せて一年百萬磅に上るものとしたるが、千九百三年より千九百十年に至る第一期の調査に於ては、製造業に用ひられたる分と無形的輸出の分とを區別し、毎年前者を四萬三千磅、後者を八十一萬四千磅としたり。無形的輸出に就ては其金額の當否を判別する資料を缺くを以て、姑く措き、製造業に使用せらる、金貨の少量なるに就ては、說明す可きものあり。即ち千九百十六年一月十六日大藏大臣は前年中寶石商の使用したる金貨の高に就て議會の質問を受け、正確なる答辯を與ふる能はざりしが、一方に造幣局は八十の商會より報告を徵し、既往七年間製造業に消費せられたる金貨を三十萬磅と計算したり。

以上の計算に據り、千九百十四年六月末日公衆の間に流通したる金貨の過大なるや否やに、就ては、尙ほ他日の研究調査に俟たざる可からざるものありと雖も、假に上記の如く之を七千八百三十萬磅とすれば、此金額は一部分保藏せられ、他の部分は通貨券の發行に依て、流通外に回收せられたりと見る可く、而して以上の金貨現在額に對して一億一千八百萬磅の通貨券が盡く世間に流通したらんには、或は爲めに通貨の膨脹を促したりと見る可きも、然らざる以上は、通貨の膨脹は單に銀行紙幣銀貨の增加、銀行信用の膨脹に限らる可きものなり。

千九百十五年八月八日大藏省が爲替相場維持の爲め、金貨準備を鞏固にするの必要を認め、郵便局其他の官署に向つて、出來得る限り金貨に代つて、紙幣を現金の支拂に充つ可きの訓示を發したるは、注目に値す可し。即ち公衆は國家的利益の爲めに、金貨集中の計畫に贊成し、（一）銀行並に郵便局に金貨を拂込み、（二）小切手の支拂は紙幣を以て、之を受取り、（三）賃銀其他現金の拂出には金貨を用ひず、紙幣を之に充つることに依て、其進行を援助することゝ爲れる次第なり。

二、物　價

月	一九一三年 ステーチスト	一九一三年 エコノミスト	一九一四年 ステーチスト	一九一四年 エコノミスト	一九一五年 ステーチスト	一九一五年 エコノミスト	一九一六年 ステーチスト	一九一六年 エコノミスト
一	八六、四	一二四、一	八三、五	一一九、〇	九六、四	一三六、五	一二三、六	一七四、五
二	八六、一	一二三、四	八三、八	一一八、九	一〇〇、九	一四二、三	一二七、〇	一八二、二
三	八六、七	一二三、四	八二、八	一一八、〇	一〇三、七	一五〇、二	一三〇、四	一八二、四
四	八六、二	一二四、〇	八二、三	一一七、五	一〇五、九	一五一、二	一三四、二	一九〇、五

物價の騰貴は著しく公衆の注意を惹起したり。然れども其原因に就ては其觀察者の所見に依て、異なる所少なからず。金融上の取引に從事する者は通貨に於ける變動を以て、製造業に從事する者は生產者の獨占、內外國政府の需要增加、運賃の騰貴、生產費の增加、租稅の增徵を以て、各々其原因に充てんとすれども、元來今日の狀況は例外の性質を有し、一般の原則を以て、類推するに困難なるものあり。試に千九百十三年一月より千九百十六年六七月の交に至る「エコノミスト」「ステーチスト」兩雜誌の諸貨物卸賣代價指數を表示するに左の如し。

五	八五、七	一二二、四	八二、三	一一八、〇	一〇七、二	一五一、二	一三五、四	一九九、〇
六	八四、一	一二一、三	八一、二	一一五、九	一〇六、四	一四七、七	一三〇、八	一九一、五
七	八四、二	一二二、二	八二、四	一一六、六	一〇六、四	一四九、一		一九一、一
八	八五、〇	一二二、一	八七、九	一一二、六	一〇七、〇	一四九、八		
九	八五、七	一二三、三	八九、三	一二六、四	一〇七、八	一五一、七		
一〇	八四、五	一二二、一	八九、八	一二四、二	一一〇、〇	一五二、二		
一一	八三、三	一二〇、七	八八、八	一二五、五	一二三、一	一五九、一		
一二	八三、八	一一九、二	九一、六	一二七、三	一一八、四	一六五、一		

上表に據れば、千九百十三年四月より千九百十四年六月に至る間平均卸賣代價は低落したるが、爾後千九百十六年五月に至るまで騰貴し、千九百十四年七月と千九百十六年三月とを比較すれば、五割八分乃至五割九分の騰貴を示したり。物價の騰貴は交戰諸國又は隣接諸國に於ける普通の事實にして、現に伯林に於ては千九百十四年と千九百十六年三月とを比較して、物價の騰貴は十割以上に及び、佛蘭西に於ては三割五分、露西亞に於ては、開戰當時と千九百十五年末とを比較して五割の騰貴を來したり。戰爭の物價に及ぼす影響に就ては、リカードー、ツトク等に依て夙に論述せられたるが、其原因として第一に擧ぐ可きは貨幣の流通高並に其流通の速力に外ならず。貨幣には金貨又は金貨の代表物たる法貨と小切手の形態に於ける銀行貨幣との二種類あり。普通の場合に於ては、英國の如き金貨を基礎として銀行制度の行はるゝ結果、兩種の貨幣は共に變動し、前者の增加は後者の膨脹を促すと雖も、物價の騰貴する時代に於ては、銀行預金は正貨よりも急速に膨脹す可し。現に千九百十三年に於ては預金の增加は四千六百萬磅にして、增加率四分七厘に止まれりと雖も、同年末より千九百十五年末に於ては、二億磅の增加を來し、預金額十二億四千三百萬磅に對照するときは、二割の增加に當れり。固より金貨は流通より回收せられ、金貨、通貨劵並に同證書等の銀行に所有せらるゝものありと雖も、銀行預金の增加斯の如く爲る以上は、通貨の膨脹したる事實は疑を挾む可からざるなり。

次に貨幣流通の速度に就て考ふるに、物價の騰貴、商業の好況は流通の速度を大ならしむるの效果を有するものなり。然れども現在の狀況に於ては、流通速度の上進を妨げ、戰爭前に比較して、之を遲緩ならしむるの作用少なしとせず。鐵道運輸に對する壓迫、船渠の繁忙郵便の緩滯、勞働の不足、諸種の產業に於ける勞働效程の減損、貨物移動に對する政府の制限等は自ら商業取引を妨害し、貨幣流通の速度を遲緩ならしめざるを得ず。若しも流通の速度遲緩と爲りたらんか、上記物價騰貴の勢の減縮せらる可きは勿論にして、隨て貨幣の狀況は物價騰貴の全斑の原因とす可からず。然らば他の原因は之を何れの方面に求む可きやと云へば交換せらる可き貨物數量の變動の如き、第一に數う可きものにして、軍隊の徵募に依る勞働者の不足、勞働素質の低落の如き、此點に最も大なる關係を有す可し。固より機械の應用、職工組合規則の緩和は自ら勞働不足を調節するの効果あるが如しと雖も、其及ぶ所は重要なる少數の事業に限らるゝのみ。斯の如くして千九百十六年上半季に於ける勞働の產出高は二年以前に比較して、甚だ少なく、貨物の供給を不足せしめたり。或は內國生產に於ける不足は輸入の增加に依て補はるゝの說あり。試に千九百十三年と千九百十五年とに就て、輸入品の數量を擧ぐれば左の如し。

	一九一三年	一九一五年	
食物			
穀物並に穀粉	一〇五、九	一〇三、九	百萬ハンドレッド
牛肉	九、二	八、六	ウエイト
羊肉	五、三	四、七	
燻製豚肉	四、九	六、五	
有稅品			
粗製コ、ア	七八、三	一八七、一	百萬封度
茶	三六五、〇	三一七、三	
煙草	一六六、〇	二〇五、九	
原料品			
羊毛	八〇〇、六	九二六、七	百萬封度
棉花	二一、七	二六、五	百萬センタル
紙製器具	一、二	一、一	百萬噸
鐵、鐵製品	二、二	一、二	

內國在住人民の減少と千九百十六年に於ける政府の輸入禁止制限とは消費の節約と相重なりて、輸入品の數量に減少を來さしめたるを以て、輸入に依て、內地生產の減少を補充するが如きは、到底之を企及する能はず、一方に輸出に多少の減少の行はれたることを斟酌するも、尙ほ全體に於て內國に於ける交換せらる可き貨物の減少したるは勿論にして、一方に貨幣の數量の增加したる以上は、物價の騰貴は之を免かる可き所に非ず、若しも流通の速度に何等の減退なかりしならんには、物價の騰貴は更に著しきに至れる道理なり。

一般物價の騰貴より特殊の物價騰貴に就て考ふるに、一般物價の騰貴する場合には、總ての貨物勤勞は盡く其影響を蒙る可しと雖も、尙ほ其程度の高低は一の貨物に於ける特殊の事情に依て定まる可く、一の貨物にして平均以上に、代價騰貴するときは、他の諸貨物は其數量に比例して、代價騰貴の程度平均以下に居る可く、又一の貨物にして從來供給せられたる源泉を戰爭の爲めに閉塞せられたりとせんか、之に代る可き生產は高價を以て行はれ、代用品の代價騰貴し、戰前の貯藏品の存續する間は高價を以て賣却せらる可し。又貨物にして戰時稅を賦課せられんか、稅金と同額以上の程度に於て、代價の騰貴を見る可く、社會各階級に於ける所得分配の變動も一階級に需要せられて、他の階級に需要せられざる貨物の代價に影響す可し。例へば軍需品工場の勞働者が賃銀增加に依て、生活に餘裕を生じ、或る物品を需要すると雖も、其物品は從來中流の階級に依て需要せられざりしものなりとすれば、斯る物品の代價は比例以上に騰貴す可く、之と反對に所得確定し、寧ろ增稅、必要品の代價騰貴に依て、購買力の削減せられたる人の需要する貨物ありとすれば、代價騰貴の程度少なく、或は生產者が新なる需要を見出さゞる限り、却て代價に下落を來すことある可し。更に運賃の增進が諸物價騰貴の勢を助長しつゝあるは勿論にして、千九百十四年並に同十五年と千九百十六年四月とを比較するに、運賃增進の一斑左の如し。

	一九一四年	一九一五年	一九一六年
歷山港より倫敦又はハルに至る	六忠 六片	—	五五忠
濠洲より大英國に至る	二一 三	—	一一〇
孟買より同上	一一	五七忠	一一二 六片
リヴアープレートより同上	一二 六	七二	一六五
合衆國より同上（棉花）	二九 三	一五〇	三二五
同上（穀物）	一 九	九 六片	一四 六

運賃の騰貴斯の如く爲る以上は、輸入品と同一の內國貨物の代價を騰貴せしむるは勿論外國より內國市場に貨物の到達することを妨げて益々物價騰貴の勢を助長せざるを得ず。